



公明党
長谷部 竜作
議員

補助金について

問 予算案で補助金を一律減額したが、どのような効果を狙ったものか。

答 財政課長 補助金 一律0・5%の削減をお願いしました。これは、今後の厳しい財政状況を理解していただくためのものです。

問 厳しい財政状況の中では、補助金交付団体の自立を促していくことも必要ではないか。

答 総務部長 補助金の終了とともに、活動が終了してしまう団体もあることから、自立については、十分な支援をしていきます。

通学路整備について

問 安全確保のため設置場所の再検討を含め、積極的に防犯灯の設置をお願いしたいがどうか。

答 市民部長 防犯上、緊急性が高い場合については、市が主体的に設置するなど、柔軟な対応をとっています。

問 横断歩道等の道路標示が消えている箇所が多い。早急に整備していただきたいがどうか。

答 都市建設部長 学校統合により、生徒、保護者等、交通需要の増加が見込まれることから、道路整備は必要になると考えています。

答 市民部長 横断歩道等の整備は、県の公安委員会の所管です。市としては、早急な整備改善の対応を要望していきます。

問 山武中学校周辺に通学路は、歩道が少なく、カーブが多く、見通しも悪い。積極的な安全対策をお願いしたいがどうか。

答 都市建設部長 学校統合により、生徒、保護者等、交通需要の増加が見込まれることから、道路整備は必要になると考えています。

スクールバス運行時の一般市民利用の可能性について

問 小学校の統廃合によりスクールバスの運行が計画されているが、児童優先の形は崩さず、混乗等による一般市民の利用は可能か。

答 教育長 登下校時には、余剰の席が見込めないため、混乗は難しいと考えています。空き時間を利用した市民向けの運行は、利便性と経済性の両面からの検討が必要になると思われます。

問 空き時間を利用して、ルートを変えて運行する事は可能か。

答 総務部長 児童生徒の登下校を最優先とし、一般市民のために有効活用するための課題等、先進事例等を研究して、検討を行いたいと考えています。



公明党
本山 英子
議員

いじめ・不登校・教育相談の充実について

問 不登校の生徒の教育機会の確保について、どのような施策を講じているか。

答 教育部長 不登校の児童生徒については、学校との関係が途切れないよう、常に連絡をとり、児童生徒個々に応じた施策を講じています。ハートフルさんぶという適応指導教室への通級を進め、そこに通いながら、学校に登校ができることを目指しています。

問 策大綱を策定したことを受けて、文科省と厚労省がSOSの出し方に関する教育を推進するとあるが、どのように進めようと考えているか。

答 教育部長 趣旨を踏まえた中で、市で統一した事業プログラムを用意し、市内の全ての学校が、同一歩調で、取り組みを進めていきたいと考えており、いじめ防止対策事業の中に新たな事業として予算計上してまいりますので、早速取り組んでいきます。

問 平成30年度の国の施策に、昨年7月に政府が新しい自殺総合対

就学援助・要保護・準要保護に係る支援について

問 就学援助の入学前支給については、中学校と小学校が同時期にできなかつた理由は何か。

答 教育部長 小学校は、文部科学省の要保護児童生徒援助費補助金交付要綱を参考に、検



問 周知方法については、入学前健診のときの周知も加えてはどうか。

答 教育部長 議員ご指摘のとおり、近隣自治体でもそういう例がありました。今後、早期に市民の利便性を高められるような周知方法に努めていきたいと考えています。